

1 課

7月3日

1日24時間、 週7日社会に生きる



安息日午後 6月26日

暗唱聖句

わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神にむかって喜び歌います。(詩篇 84 : 2、口語訳)

主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入りそうです。命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。(詩編 84 : 3、新共同訳)

今週の聖句

創世記 2 : 1~3、エレミヤ 45 : 1~5、出エジプト記 20 : 11、サムエル記下 7 : 12、マルコ 6 : 30~32、創世記 4 : 1~17

今週のテーマ

チクタク、チクタク。時計は確実に、非情に時を刻みます。安息日が始まるまであと2時間しかありません。メアリーは彼女の小さなアパートを見渡して、ため息をつきました。リビングルームには子どものおもちゃが散乱したまま、キッチンもぐちゃぐちゃ、末っ子のサラは熱を出して寝ているし、明日は教会の受付を引き受けてしまったので、いつもより30分早く行かなきゃいけないし……。 「明日はどこか静かなところにへ行けたらいいのに」。メアリーはせつない思いを口にしました。

その頃、夫のジョッシュは、週に一度の食料品の買い出しのために街の反対側にいて、レジに並んでいました。悪夢のような渋滞がまた始まっています。列は長いままで、街のだれもがみな買い物に来ているかのようです。「休みたい。こんなことを続けてはいられない」。ジョッシュはつぶやきました。「人生もっとマシなことがあるはずだろう」

私たちの生活は、ラッシュアワー、仕事、病院の予約、ネット上の会話、買い物、そして学校の役割などに支配されています。私たちは公共交通機関を使おうと、スクーターに乗ろうと、家族を乗せてミニバンで走り回ろうと、常に本当に大切なことを押し流してしまう、忙しさという時の流れに翻弄ほんろうされています。

こんなにもあくせくとせわしく動き回る暮らしの中で、どうやって休みを見つけれられるのでしょうか。

問1 なぜ神は、だれも疲れていない前に休みの日を創造されたのでしょうか（創2：1～3）。

人類が自らこのストレス社会に飛び込む以前に、神は私たちの記憶を呼び起こすためのしるし、生きる道をお定めになりました。この日は立ち止まって人生を楽しむ日、するのではなく、あるための日、草木、空気、動物、水、人、そして何より、このようなすばらしい贈り物をくださった創造主を賛美し祝う日となるのでした。

これは、人間がエデンから追われて失効するような一度限りの招きではありませんでした。神は、主が貴い時間という布の中に、安息日の休みという刺繡を編み込み始められたその時から、この招きが時代を超えて人間にとって全く適切なものとして存続することを望まれたのでした。この招きは7日目ごとに安らぎを与える創造の祝日として、何度も何度も絶えることなく訪れるのです。

労働を効率化する機械の登場で、200年前よりもはるかに人間の身体的な疲労は軽減されたと考える人もいます。しかし、今日でも実際に人は短時間の休息しか得られていません。人が働いていない時でさえ、常軌を逸した活動は休みなく続いています。いつでも後ろから追い立てるように、もっと効率を上げられるはず、常にしなければならないことが待っている、そういった観念にとらわれています。

研究結果も、多くの人が睡眠時間を削り、働き続けるためにカフェインに頼っていることを示しています。どれほど携帯電話やコンピューターの処理速度が速くなり、インターネットの接続速度が速くなっても、なお、人は十分な休みが得られないのです。

問2 次の聖句は、休みの大切さについてどのように述べていますか（マコ6：31、詩編4：9（口語訳8節）、出23：12、申5：14、マタ11：28）。

人を創造された神は、私たちの体に休みが必要なことをご存じでした。休むために時間のサイクルを造られました。つまり体を休めるために、夜や安息日が与えられたのです。私たちの命の主としてのイエスを知ることは、休む時を持つ責任を誠実に果たすことにつながります。つまり、安息日は単なる勧めではなく、命令なのです。

あなたをせき立てているものは何ですか。あなたの身体的と霊的向上のために、そして神が望んでおられる休みのために何ができるでしょうか。

睡眠不足や体を酷使うことによる過度の疲労は大きな問題です。しかし、更に深刻な問題は、「感情が空になった」状態で走り続けていると感じることです。もちろん、睡眠不足がこの感情の状態に加われば、痛ましい自信喪失につながりかねません。

エレミヤの口述筆記者バルクも、エルサレムの最後の荒廃の時代にしばしば似た感情に襲われたことでしょう。混沌と受難、そして大破壊がバビロン人によるこの都の滅亡に続くはずだったからです。

問3 エレミヤ 45：1～5 を読んで、バルクの感情的健康状態を手短に診断してみましょう。

あなたが神から個人的に特別のメッセージを託されたら、どのように感じるでしょうか。バルクは、神の御座のある部屋から直接のメッセージを受けたのです（エレ45：2）。「ユダの王ヨシヤの子ヨヤキムの第四年に」とありますから、これは紀元前605年もしくは604年のことです。エレミヤ45：3は、空になっても走り続けていた人々の状態をよくまとめています。

問4 神はエレミヤ 45：4、5 で、バルクの痛みと苦しみにどのように応えていますか。

バルクの深い心痛に対する神の応答は、神の心中に湧き上がった絶望と苦痛がバルクのそれを遥かに超えて大きなものであったことを、私たちに想像させます。主はエルサレムを建てたのにそれを破壊し、ぶどう畑としてイスラエルを植えられたのに（イザ5：1～7）それを引き抜き、流浪の民にしようとしておられたのです。これは、主がその民に望まれたことではありませんが、主に対する民の反逆のために引き起こされたのでした。

もう一度バルクへの神のみ言葉を読んでください。このメッセージは私たちに何を語っているでしょうか。私たちの態度によらず、神が最終的に私たちのためにそこにいてくださるということについて、どのように語っていますか。

ヘブライ語で書かれた旧約聖書には、休みを表す語がいくつかあります。創世記2：2、3では、神が新たに創造された第七日に休まれたとの記述の中で、「シャバット」(shabbat)という動詞を用いています。これは名詞「サッバス」(sabbath)の動詞形で、「仕事をやめる、休む、休暇を取る」などの意味があります。この動詞は出エジプト記5：5では使役動詞として使われ、彼らに労働を「やめさせ」と訳されています。怒ったファラオがモーセに、イスラエルの民に労働を「やめさせ」ようとするのかと責める場面です。

十戒の第四条で、神が第七日安息日に休まれた行為はヘブライ語では動詞「ヌアク」(nuakh)で表されています(出20：11、申5：14)。この動詞はヨブ記3：13では「休み」と訳されており、さらに比喩的な表現として、民数記10：36では契約の箱に関連して「とどまる」(settled)と訳され、列王記下2：15ではエリヤの霊がエリシャの上に「とどまって」(rested)いると記されています。

もう一つの重要な動詞形は、「休んでいる、安心している、静かにしている」という意味の「シャカット」(shaqat)です。これは、ヨシュア記11：23でヨシュアの最初の征服の後、カナンの土地の戦いから解放される場面で使われ、この語はヨシュア記と士師記ではしばしば、「平和」を表すために用いられています。

動詞「ラガ」(raga)も休みを表すために用いられます。申命記では神が不服従に対する警告として、イスラエルは放浪によって休むことができないと言われます(申28：65)。ヘブライ語聖書のエレミヤ50：34〔口語訳参照〕には、同じ語が使役動詞の形で用いられ、主が「安きを与える」ことができるという表現が見られます。

問5 申命記31：15(口語訳16節)とサムエル記下7：12には、どんな休みが語られていますか。

上記の聖句では両方とも慣用的な表現として、「横になる、眠る」という意味の動詞「シャカブ」(shakab)が使われています。

このように、ここにすべてを挙げることはできませんが、休みの神学的概念を表すヘブライ語は、一つや二つの特定の語で表すことはできないことがわかりいただけるでしょう。私たちは個々に、そして集団として休みます。休みは、安息日に対してだけでなく、身体にも、人間関係にも、そして感情にも影響を与えるものです。

死は確かに敵であり、いつの日か滅ぼされます。そして私たちが死をどれほど悼み、悲しんでいるとしても、死者は休んでいるのだと知ることは、なぜ今も慰めとなりますか。

新約聖書ではしばしば、休みの動詞形で「休む、リラックスする、元気づける」という意味の「アナパウオー」(anapauo) が見られます。この言葉はマタイ11:28の、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」との、休みについてのイエスの最も有名な言葉に使われています。

もう一つの休みを表すギリシア語は、「ヘシュカザー」(hesychazo) です。この言葉はイエスが墓に入って休まれたとき、弟子たちも安息日を休んだとの記述に出てきます(ルカ23:56)。しかしこの言葉は、落ち着いた生活といった表現にも用いられています(1テサ4:11)。また、反対者がだれもない静かな状態に用いることもできます(使徒11:18)。

ヘブライ人への手紙4章4節の、神が創造の第七日に休まれた記述の中では、ギリシア語の動詞「カタパウオー」(katapauo) が、「やめる理由、休みをもたらす、休み」という意味で、ギリシア語訳旧約聖書からの引用として用いられています。興味深いのは、新約聖書でのこの言葉の使用のほとんどが、ヘブライ4章に集中していることです。

問6 マルコ6:30~32を読んでください。宣教のチャンスはいくらでもあったにもかかわらず、なぜイエスは弟子たちに来て休むように言われたのでしょうか。マルコ6章全体を読んで、より大きな文脈からも考えてみましょう。

イエスは弟子たちの体と心の健康状態を心配されました。彼らは2人ずつイエスによって送り出された長い伝道旅行から戻ったばかりでした(マコ6:7)。マルコ6:30には、彼らが興奮して帰って来たことが記されています。彼らの心は満たされていたに違いありません。彼らは、勝利と失敗の体験をイエスと分かち合いたかったはずですが、しかしイエスは、それを差し置いてもまず休むようにお命じになったのです。マルコは次のように付け加えています。「出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである」(マコ6:31)。神の働きに忙しすぎることは、弟子たちにとっても全く初めての経験でした。イエスは私たちに、計画的に休む時を持つことによって、私たちの体と心の健康を守ることを思い出させてくださるのです。

あなたの教会の牧師や長老や、そのほかのあなたが知っている人で、主の働きのために燃え尽きてしまう可能性のある人はいませんか。これらの人々に感謝を表し、彼らが休む助けになるために、あなたは何かができるでしょうか。

問7 創世記4:1～12を読んでください。何がカインを、地上を「休みなくさすらう者」(英語新国際訳4:12)にしたのでしょうか。

聖書は、なぜ神はアベルとその^{きさ}献げ物に目を留められ、カインとその献げ物には目を留められなかったのか、明白に述べてはいません(創4:4、5)。しかし、私たちはなぜかを知っています。「カインは約束の犠牲について、また犠牲の供え物の必要について、心中に不平と不信をいだきながら神の前に来た。彼の供え物は、罪の悔い改めの表明ではなかった。彼は、今日の^{しやうぐん}多くの人々と同様に、神に指示された通りの計画に従い、約束の救い主の贖罪に全く自分の救いをゆだねることは弱さを承認することであると思った。彼は、自己信頼の道を選んだ。彼は自分の功績に頼った」(『希望への光』38ページ、『人類のあけぼの』上巻66ページ)。

神がカインに、地上を「休みなくさすらう者」となるだろうと言われたとき、それは神が彼をそうされたのではなく、彼の罪の行いと不服従が招いた結果でした。カインは神の内に休みを見いだすことができなかったのも、ほかの方法によっては休みを見いだせないことを、少なくとも真の休みを見いだせないことを知ったのでした。

「目を留められた」(創4:4)と訳されているヘブライ語は、「近づいて見られた、熟慮された」と訳すこともできます。神が近づいて、注意してご覧になったのは、供え物そのものよりも、むしろそれを献げる人の態度でした。

問8 創世記4:13～17を読んでください。カインは神の裁きにどのように応答したでしょうか。

私たちが神の御前から逃げ出そうとするとき、心に休みがなく、不安になります。私たちは天来の恵みの代わりを求めて、物や人間関係、あるいは過度に忙しい生活で埋め合わせようとします。カインは王朝と都市の建設を始めます。それは偉大な業績ですし、決意とエネルギーを示すものではありません。しかし、それが神なき王朝、そして反逆の都市であるならば、その帰するところは無なのです。

もし私たちが、普段そうであるように、私たちの罪の結果に苦しみ、行き詰まっているとすれば、私たちはどのようにして、十字架を通して私たちに提供されている罪の赦しを受け入れることを学ぶことができるでしょうか。

「ラビたちの意見によれば、宗教の本質はいつも忙しく活動していることにあるというのであった。彼らは、人よりもすぐれた自分たちの信仰を示すために、何か外見的な業績にたよった。こうして彼らは自らの魂を神から引き離し、自己満足のうちに自己を築きあげた。同じ危険が今も存在している。人々は、活動が増し、神のためのどんな働きにも成功するようになると、人間的な計画や方法にたよる危険がある。祈りが少なくなり、信仰がうすくなりがちである。弟子たちと同じように、われわれは、神によりたのむことを忘れて、自分の活動を救い主にしようとする危険がある。われわれは、たえずイエスをながめて、働きをなすのはキリストの力であることを認める必要がある。われわれは、失われた者の救いのために熱心に働く一方では、^{めいそう}瞑想と祈りと神のみことばの研究に時間をとらねばならない。多くの祈りによってなしとげられ、キリストの功績によってきよめられた働きだけが、善に対して力のあるものであったことが最後にわかるであろう」（『希望への光』857ページ、『各時代の希望』中巻99、100ページ）。

話し合いのための質問

- ① 神のための良い行いであっても、私たちを忙しくさせすぎることには起こりえます。マルコ6：30～32に出てくるイエスと弟子たちのやりとりについて考え、どのように私たちの生活に適用できるか話し合ってみましょう。
- ② 1899年に当時の最高速度記録が破られました。それは自動車で時速63.14キロで走り、無事に生還するというものでした。もちろん、現在の自動車の最高速度はこんなものではありません。そして、現在のスマートフォンのプロセッサのスピードは、一世代前の最速の大型コンピューターよりも速いのです。空の旅の速さも日進月歩です。つまり、何もかもが以前より速くなっているのです。しかし、それが何を生んだのでしょうか。私たちはなおも急ぎ、休めずにいます。この現実、人間の基本的な性質について何を語っているのでしょうか。なぜ神はその戒めの一つに、非常に重要なものとして休みを定められたのでしょうか。
- ③ 人類が罪を犯す前のエデンにおいてさえ、すでに安息日の休みが定められていたことを考えてみてください。この事実は、その神学的な意味以外に、罪人であろうと完全であろうと、いかに私たちに休みが必要であるかについて何を語っているのでしょうか。

サンダルと喧嘩^{けん か}

6歳のダネイが、両親と6人の兄弟と共にアメリカに着いたとき、すべてがおかしく感じられました。彼らが新しく住む町の道は車でいっぱいでした。故郷のミャンマーで受けた暴力から逃れて滞在していたタイの難民キャンプでは、こんなにたくさんの車を見たことがありません。しかも、以前住んでいた竹の家にはエアコンも水道もなく、ダネイは川で入浴していました。今や、家の中にはエアコンも水道もお風呂もすべてあるのです。ダネイは、新しい家を神に感謝しました。

ダネイが、サンダルを履いて公立の学校に行くと、先生はすぐに彼を家に帰しました。彼を車で送った学校の職員は、母親に靴屋の探し方を教えましたが、ダネイの両親は車を運転することも、英語を話すこともできません。ですから、親戚が彼を初めて靴屋に連れて行ってくれました。

次の日、ダネイは学校に戻りましたが、その年は困難な時でした。何人かの子どもたちが難民を不親切に扱うので、彼の兄の1人は喧嘩をするようになりました。

それから、あるセブンスデー・アドベンチストがダネイの家族と友だちになり、彼を教会学校の2年生に編入する手助けをしてくれました。13回献金で、彼の授業料をカバーしてくれました。ダネイは、親切でフレンドリーな教会学校のクラスメートに恵まれて幸せでした。彼は、クリスチャンの両親から神について聞いていましたが、今や、学校でみずから聖書を読むようになりました。彼はもっと学びたいと思い、成長するに従って、幾つかの聖書研究グループに加わりました。

12歳のとき、彼の信仰は試されました。ある日、父親が果樹園で働いた後、家の外で倒れてしまったのです。救急車を呼ぶ方法をだれも知らなかったので、家族で車に乗せ、病院に急ぎました。ダネイはひどく落ち込み、その晩は眠れませんでした。彼は今までになかったほど熱心に祈りました。「神様、お父さんを治してください。治ったら、バプテスマを受け、あなたに献身します」

3日後、病院で父親を見ると、以前は強かった父親が、青白く、弱くなっていました。医師は脳卒中だと言いました。彼は祈り続けました。父親が数週間かけてゆっくりと回復し、退院できたとき、彼は約束通りにバプテスマを受けました。

5年後、父親はがんで亡くなりましたが、父親がイエスに心をささげたことを17歳のダネイはうれしく思いました。

「バプテスマの後、さらに聖書を読み、祈り、これまでよりも幸せを感じるようになりました。神様は常にぼくを見守り、どこでも共にいてくださいます。ぼくはいつも感謝しています」

